

2020（令和2）年度当初予算概要の説明

本学は、2026年に創立100周年を迎えるにあたり、2018年5月の理事会において第3次中期マスタープランを策定し、「大正大学魅力化構想7ヵ年総合戦略（MIGs アジェンダ 2026）」として推進しています。

この総合戦略には学修支援体制の充実と学生サービスの徹底が必須であり、そのために、新8号館を建築し、総合学修支援体制「DAC」を組織します。

従って、2020年度当初予算は、2019年度予算に引き続き、新8号館の完成時支払金及びDACの充実、学内環境整備を含めた「魅力化予算（MIGs 予算）」を中核とした編成になります。

なお、今年度の当初予算の方針として、固定費以外の予算については全体的に10%マイナスシーリングを心掛け、外部への委託費は極力見直し、見込まれる成果を重視し、また各部局で重複して計上しているものは整理・統合するなど厳密な精査を行いました。

一方で、魅力化事業の予算規模は2020年から2026年までの間に、総額50億円を計上し、各年度の予算計上額は6億円を目途とします。

（大正大学魅力化事業と予算配分については別途記載します。また、新型コロナウイルス感染症への対応に伴い、予算措置を講ずる必要が生じた場合は、予備費を活用します。）

説明においては、金額の表記を百万円単位とし、10万円台を四捨五入します。

◎2020年度の主な支出

<新8号館竣工時支払金>

- ・新8号館の竣工時支払金として5,200百万円を計上しました。

◎2020年度の主な資金収支状況

収入面では2020年度新生から授業料の改定による収入が184百万円増、施設設備費の改定による収入が47百万円増となりますが、教育充実費を廃止することによる減収は64百万円となり、学生生徒等納付金収入全体としては差引で179百万円の増収を見込んでいます。

また、新8号館の竣工に伴い5,000百万円の外部借入れを予定しています。

支出面では、経常経費について2019年度当初予算額をベースに、固定費以外は10%マイナスシーリングをめざし厳格に査定を行いました。地域実習経費についても、株式会社ティー・マップ、株式会社DACイノベーションとの協働、総合学修支援機構DACとの連携を強化しながら経費の削減に努めます。

以上により、翌年度繰越支払資金は前年度比441百万円増の2,518百万円となります。

◎ 2020年度の主な事業活動収支状況

2020年度の事業活動収支状況は、事業活動収入計が6,836百万円で前年度予算比337百万円の増、事業活動支出計が6,774百万円で前年度予算比327百万円の増となっており、事業活動収支差額（基本金組入前当年度収支差額）は62百万円の収入超過で前年度予算比10百万円の増を見込んでいます。

◎ 2020年度資金収支予算の主なポイント（資金収支予算書に基づき説明）

<資金収入の部>

① 学生生徒等納付金収入：5,339百万円（前年度予算比：179百万円増）

授業料収入は、2020年度の新入生から改定したことにより、前年度比184百万円増。

施設設備費収入は、2020年度の新入生から改定したことにより、前年度比47百万円増。

教育充実費収入は、2020年度の新入生から廃止したため、前年度比64百万円減。

② 手数料収入：185百万円（前年度予算比：8百万円増）

学科新設による受験生増を見込んで、入学検定料について、前年度比で10百万円増を計上。

③ 寄付金収入：376百万円（前年度予算比：12百万円増）

鴨台会基金への収入により前年度予算比2百万円増。

時宗一般寄附金10百万円増。

④ 補助金収入：753百万円（前年度予算比：180百万円増）

高等教育の修学支援新制度（無償化）を想定し、経常費等補助金収入に200百万円を計上。

⑤ 資産売却収入：0円（前年度予算比：500百万円減）

2020年は資産売却の予定なし。

⑥ 付随事業・収益事業収入：20百万円（前年度予算比：6百万円減）

受託研究事業が2019年度で終了することを踏まえた減額。

⑦ 受取利息・配当金収入：132百万円（前年度予算比：13百万円減）

2020年度は新8号館建設に伴う運用資金の減少により前年度予算比13百万円減。

- ⑧ 雑収入：32 百万円（前年度予算比：24 百万円減）
退職者予定者減により退職金財団交付金収入が前年度予算比 20 百万円減となること等を踏まえた減額
- ⑨ 借入金等収入：5,000 百万円（前年度予算比：5,000 百万円増）
新 8 号館竣工時支払金及び教育研究に関する経費の充実のため、5,000 百万円の借り入れ予定。
- ⑩ 前受金収入：1,286 百万円（前年度予算比：0 円）
2021 年度新入生の学生生徒等納付金の前受金収入は 2020 年度と同額を計上。
- ⑪ その他の収入：148 百万円（前年度予算比：919 百万円減）
経年実績に基づく予測金額を計上。
- ⑫ 資金収入調整勘定：1,406 百万円（前年度予算比：131 百万円減）
2020 年度新入生の授業料等の前受金収入の増額予測に基づく計上。
- ⑬ 前年度繰越支払資金：2,077 百万円（前年度予算比：352 百万円増）
2019 年度の決算見込み額を計上。

<支出の部>

2020 年支出の主なもの、魅力化予算（MIGs 予算）の新規計上および増額計上合計 218 百万円である。

大正大学魅力化構想を具現化するための環境整備として、モバイル内線化 14 百万円、新 8 号館 BookWall 配架 10 百万円、スマートユニバーシティ映像化他戦略的広報 71 百万円、地域戦略（地域人材奨学金）11 百万円、DAC チュートリアル教育 86 百万円、学生支援ポートフォリオシステム運用 7 百万円（保守等）、アントレプレナーシップ養成 12 百万円等を計上。

- ① 人件費支出：3,373 百万円（前年度予算比：129 百万円増）
設置計画に基づく配置、総合学修支援機構 DAC の本格稼働等による専任教員の採用増により 129 百万円の増額（教員 6 名、コアチューター 6 名、クラスチューター 50 名、第Ⅱ類チューター 11 名の採用予定等）
退職金支出は退職予定者が減少したため前年度比 21 百万円の減。

- ② 教育研究経費支出：1,971 百万円（前年度予算比：100 百万円増）
主な支出は、高等教育の修学支援新制度（無償化）を想定し奨学費支出に 200 百万円を計上。
業務の見直しによって委託費支出 85 百万円、研究費支出を 21 百万円、実験実習費 7 百万円、
学生諸費 4 百万円、旅費交通費 4 百万円などを前年度予算比で削減した。
- ③ 管理経費支出：517 百万円（前年度予算比：51 百万円増）
主な支出は、広報戦略としてのホームページ改修 8 百万円、スマートユニバーシティ映像
化・戦略的広報 52 百万円、スカウティング入試 2 百万円など。（前出の魅力化予算に含む）
- ④ 借入金等利息支出：27 百万円（前年度予算比：19 百万円増）
借入金額の増加に伴う支払利息の増額。
- ⑤ 借入金等返済支出：100 百万円（前年度予算比：50 百万円増）
借入金返済期限の到来による返済金額の 50 百万円の増。
- ⑥ 施設関係支出：5,204 百万円（前年度予算比：3,945 百万円増）
2020 年度の施設関係支出は新 8 号館建築に関するものが主。
- ⑦ 設備関係支出：63 百万円（前年度予算比：25 百万円減）
2020 年度の主な設備関係支出は、デジタルサイネージ購入費用 25 百万円、一般図書 50 百
万円。
- ⑧ 資産運用支出：117 百万円（前年度予算比：521 百万円減）
経年実績に基づく予測金額を計上。
- ⑨ その他の支出：320 百万円（前年度予算比：54 百万円減）
経年実績に基づく予測金額の計上。
- ⑩ 資金支出調整勘定：320 百万円（前年度予算比：5 百万円増）
経年実績に基づく予測金額の計上。
- ⑪ 翌年度繰越支払資金：2,518 百万円（前年度予算比：441 百万円増）

◎ 2020年度事業活動収支予算の主なポイント（事業活動収支予算書に基づき説明）

〈教育活動収支の部〉

① 教育活動収入計：6,704百万円（前年度予算比：350百万円増）

2020年度は学費の改定により学生生徒等納付金が179百万円の増額見込みである。

また学科新設による受験生増を見込んで入学検定料については前年度比で10百万円増を計上。

高等教育の修学支援新制度（無償化）を想定し経常費等補助金を200百万円の増額計上。

雑収入は退職予定者が少ないことから退職金財団交付金20百万円の減額見込。

② 教育活動支出計：6,688百万円（前年度予算比：359百万円増）

前年度比で人件費が105百万円の増額、教育研究経費203百万円の増額。管理経費が51百万円増額の見込みとなった。

教育研究経費増の主な要因は、無償化に伴う奨学費200百万円増と新8号館建設に伴う減価償却費103百万円増の計上。

③ 教育活動収支差額：17百万円（前年度予算比：9百万円減額）

教育活動収入は前年度予算比350百万円の増額であるが、教育活動支出において、魅力化予算の増額等により359百万円の増額であり、差引で教育活動収支差額は前年度予算比で9百万円の減額となった。

〈教育活動外収支の部〉

① 教育活動外収入計：132百万円（前年度予算比：13百万円減）

受取利息・配当金の減少による減額

② 教育活動外支出計：27百万円（前年度予算比：19百万円増）

借入金等利息の増加による増額

③ 教育活動外収支差額：105百万円（前年度予算比：31百万円減）

④ 経常収支差額：122 百万円（前年度予算比：40 百万円減）

学校法人の経常的な経営指標である経常収支差額は、魅力化経費 218 百万円を予算化した結果、前年度予算比 40 百万円減の 122 百万円（経常費収支差額比率 1.8%）となった。

〈特別収支の部〉

① 特別支出計：10 百万円（前年度予算比：50 百万円減）

設備関係の処分差額が減少したことによる 50 百万円の減額

② 基本金組入前当年度収支差額：62 百万円（前年度予算比：10 百万円増）

学校法人が継続的に維持発展するために重要な事業活動収支差額は 62 百万円（事業活動収支差額比率 0.9%）で前年度予算比 10 百万円の増額となった。

◎当初予算（案）を反映した主な財務比率について（事業活動収支予算書に基づき報告）

主な財務比率を表記します。

（ ）は全国平均（平成 31 年度版「今日の私学財政」5 カ年連続財務比率表（医歯系大学を除く）－大学部門－）の平成 30 年度決算ベースの比率です。

人件費比率	49.4% (52.7%)
教育研究経費比率	39.8% (36.6%)
管理経費比率	8.6% (6.9%)
事業活動収支差額比率	0.9% (3.5%)
学生生徒等納付金比率	78.1% (78.7%)
経常収支差額比率	1.8% (3.4%)

以 上